

# 総社植野北開土遺跡

道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

## 序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

本市の歴史は大変古く初めてこの地に人々が住み始めたのは、今から二万八千年以上も前の旧石器時代であることが分かっています。また、古墳時代においては、市域東部には、国指定史跡大室古墳群があり、市域西部には総社古墳群（遠見山・王山・総社二子・愛宕山・宝塔山・蛇穴山）があり、上野国の中心ともいえる文化を築きました。さらに、律令制度の時代においては、元総社町に上野国府がおかれて、山王廃寺・国分寺・国分尼寺が建立され、上野国の中心として位置づけられました。

このように、総社植野北開土遺跡が所在する総社地区周辺は、歴史のあかしとしての史跡、文化財が数多く残されています。

今回の調査では、住居跡は検出されませんでしたが、古墳時代の小区画の水田跡が比較的良好な状態で検出されました。火山の多い群馬県では火山災害がたびたびありましたが、こうした中で稲作り力強く生活していた先人の息づかいが伝わってくるようです。

最後に、この調査報告書を刊行するにあたり、関係機関の方々、地元の方々のご理解とご協力を得たことに対し深甚なる感謝を申し上げます。

平成14年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
団長 阿部 明雄

## 例　　言

- 1 本報告書は、道路改良工事に伴う総社植野北開土遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市総社町植野 650 番地外
- 3 調査は、前橋市の建設部道路建設課の委託を受け、前橋市埋蔵文化財発掘調査団(団長 阿部明雄)が事業主体となり、同調査団からの業務委託を受けたスナガ環境測設株式会社(代表取締役 須永眞弘)が実施した。
- 調査担当者 鈴木雅浩(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)
- 金子正人(スナガ環境測設株式会社)
- 権田友寿(スナガ環境測設株式会社)
- 4 発掘調査期間 平成13年 8月31日～平成13年12月7日  
整理期間 平成13年12月 8日～平成14年 3月8日
- 5 調査計画面積 879.5m<sup>2</sup>
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永眞弘、調査担当…権田友寿、調査助言…金子正人、測量…権田友寿・板垣宏、写真撮影…権田友寿、安全管理(重機オペレーター)…都丸保男・栗原昭一郎、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 自然科学分析 株式会社古環境研究所
- 9 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆を権田友寿、編集・校正…須永眞弘、実測図の整理他…権田友寿、田辺富士子、遺物洗浄・注記、接合…金子正人・栗原昭一郎、写真整理・内業事務…須永豊・柴崎信江・戸根浩美が担当した。
- 10 発掘調査に参加した方々(敬称略)  
上村一視 下田和子 山本良政 渡辺克弘 小暮幸子 渡辺国治 田辺富士子 金子和子

## 凡　　例

- 1 遺跡の略称は、13AI13である。
- 2 遺構名の略称 溝跡…W、柱穴…P、掘立柱建物跡…B、土坑…D  
第12図中のB区南端壁断面図の記号 P…土器片、S…石
- 3 実測図の縮尺 第1面、第2面全体平面図1/500、小区画水田跡1/60, 1/80, 1/200、溝跡1/60, 1/80, 1/100, 1/200、柱穴1/60, 1/100、炭化物集積跡1/60, 1/100、耕作痕1/80, 1/100, 1/200、土坑1/80, 1/100を使用。
- 4 掘入図は、国土地理院発行の2万5千分の1「前橋・渋川」を使用した。
- 5 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合し、基準点A-0 グリッド地点 第IX系座標値 X 46300.000m, Y -71980.000m、水準点 BM. 1…141.00m, BM. 2…140.50m, BM. 3…139.50m、等高線 小区画水田5cm、その他10cm、20cm、グリッド 4m間隔
- 6 土層断面の土色名は『新版標準土色帖』(農林省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人 日本色彩研究所 色票監修)による。
- 7 土層注記及び本文中には  
As-C : 4世紀陣下浅間山起因の軽石 As-B : 1108年降下浅間山起因の軽石  
Hr-FA : 6世紀初頭降下榛名山起因の火山灰 Hr-PP : 6世紀中葉降下榛名山起因の軽石  
の略称を使用した。

## 目 次

序.....	i	V 検出された遺構と遺物.....	4
例 言.....	iii	1. 概 観.....	4
凡 例.....	iii	2. 小区画水田跡 (古墳時代).....	11
目 次.....	iv	3. 溝跡.....	11
I 調査に至る経緯.....	1	4. 堀立柱建物跡及び柱穴.....	15
II 遺跡の位置と歴史的環境.....	1	5. 炭化物集積跡.....	15
1. 遺跡の立地.....	1	6. 耕作痕.....	17
2. 歴史的環境.....	1	7. 土坑.....	17
III 調査の方針と経過.....	1	8. 検出された遺物について.....	17
1. 調査方針.....	1	VI 自然科学分析.....	22
2. 調査経過.....	2	VII ま と め.....	22
IV 編 序.....	4		

## 挿 図

第1図 周辺遺跡図 (1:25, 000) .....	2	第7図 W-1～-7, P-1～-2実測図 (S=1:200, 60).....	12
第2図 遺跡位置図 (S=1:2, 500) .....	3	第8図 W-2～-6, P-1～-2断面図 (S=1:60) .....	13
第3図 深堀り土層断面図 .....	4	第9図 W-9～-10実測図 (S=1:100, 80, 60) .....	14
第4図 総社植野北開土遺跡第1面現況平面図 (S=1:500) .....	5	第10図 堀立柱建物跡、ピット及び炭化物集積跡 実測図 (S=1:100, 60) .....	16
第5図 総社植野北開土遺跡第2面現況平面図 (S=1:500) .....	7	第11図 A区耕作痕実測図 (S=1:200, 100, 80) .....	19
第6図 小区画水田跡実測図 (S=1:200, 80, 60) .....	9	第12図 B区耕作痕、土坑実測図 (S=1:100, 80) .....	20
		第13図 遺物実測図 (S=1:3) .....	21

## 表

溝計測表.....	11	その他の柱穴計測表.....	15
B-1柱穴計測表.....	15	出土遺物観察表.....	17
B-2柱穴計測表.....	15		

## 写真図版

- 図版1 調査前A区現況(北から撮影)、調査前A区現況(西から撮影)、調査前B区現況(南から撮影)、W-1～W-7全景(北から撮影)、W-1出土遺物、W-9全景(上層)、W-9全景(下層)、W-10全景(東から撮影)
- 図版2 A区第1面耕作痕(東から撮影)、A区第1面耕作痕(北から撮影)、B区第1面耕作痕(北から撮影)、A区第1面堀立柱建物跡(北から撮影)、A区第1面炭化物集積跡全景、A区第2面W-1西侧全景(北から撮影)、B区南端第2面全景(南から撮影)、小区画水田面直上土層断面(Hr-FA)
- 図版3 A区深掘りN.2土層断面、小区画水田跡全景(東から撮影)、小区画水田跡全景(北から撮影)、小区画水田大畦畔2(北から撮影)、小区画水田面足跡、埋め戻し完了(南から撮影)、埋め戻し完了(西から撮影)、埋め戻し完了(南から撮影)
- 図版4 出土遺物

## I 調査に至る経緯

道路改良工事の実施に伴い、前橋市建設部道路建設課より埋蔵文化財の照会があり前橋市教育委員会文化財保護課では協議・検討を行った。その結果、今回実施する道路改良工事部分の西側において、平成10年度、大友町西通線遺跡調査会により都計道大友町西通線建設に伴う総社高井桃の木遺跡の調査が行われ多数の遺構が検出されていることなどを踏まえて、当局との協議のうえ、上記道路改良工事用地の発掘調査を実施し、記録保存することになった。このため、平成13年7月6日付で前橋市長 萩原 弥悠治（前橋市建設部道路建設課）より前橋市教育委員会にて道路改良工事に伴う本発掘調査依頼がなされ、前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団はこれを受諾し8月24日両者の間で本発掘調査の委託契約が締結された。その後、前橋市埋蔵文化財発掘調査団は本発掘調査の委託契約を8月31日付で民間調査機関（スナガ環境測定株式会社）と締結し、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと、平成14年3月8日までの調査期間で実施した。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1. 遺跡の立地

本遺跡は、前橋市と、吉岡町との行政境に位置し、JR上越線群馬總社駅から西北西へ約400mにあり、東方1.0km程には利根川が南流し、また、北方500mには榛名山の外輪山を流域に含む2河川の内の1つである牛王頭川が南東流する。地形は、相馬ヶ原扇状地の扇端付近に立地し、標高141m程のやや南東に傾斜した地形を利用し、水田や畠が広がっていたが、道路整備や工業団地などの土地開発などによりこれからますます遺跡調査が進む地域である。

### 2. 歴史的環境

現在、総社植野北開土遺跡の所在する総社町植野周辺では、県道南新井・前橋線の道路改良工事や前橋・伊香保バイパス及び利根川に上毛大橋が完成し、これらに先立ち埋蔵文化財の発掘調査が行われた。本遺跡も近隣に建設された前橋・伊香保バイパスとのアクセス道路としての役割を持つ道路改良事業に先だって調査が進められた。本遺跡は、绳文時代及び古墳時代から中・近世に至る遺構・遺物が検出された。以下時代を追って周辺遺跡を記す。绳文時代では、前期清里・長久保遺跡(3)、熊野谷遺跡(27)、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡(19)、中期後半では、配石遺構は長久保大畑遺跡(5)、住居跡は新田入口遺跡(6)、清里・長久保遺跡(3)、下東西遺跡(23)等で確認されている。弥生時代では、中期の環濠集落跡が発見された清里・庚申塚遺跡(4)、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡では集落跡が検出された。後期では新田入口遺跡の他、柿木遺跡(24)、青葉遺跡(25)等がある。古墳時代では、本遺跡周辺は県内有数の古墳密集地域で6世紀中期～7世紀にかけて8角形をした三津屋古墳(2)、本遺跡南東には、5世紀末頃に遼見山古墳(12)、6世紀代には二子山古墳(10)終末期には、愛宕山古墳(11)、宝塔山古墳(13)最後には蛇穴山古墳(14)などの総社古墳群があり、その近くには、白鳳期の建築物と考えられる、山王庵寺遺跡(16)があり、仏教文化と古墳文化の併存がうかがえる。集落跡は長久保大畑遺跡の4世紀代の住居跡を初現に、6～7世紀代の遺跡が多数検出しており、下東西遺跡(23)、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡等がある。水田跡は元総社明神W遺跡、長久保大畑遺跡、北原遺跡(26)で確認されている。墓跡は奈良・平安時代には、国府・国分尼寺等の建設とあいまって、当地域はいよいよ古代上野の政治的文化的中心地となり、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、下東西遺跡、北原遺跡、西久保遺跡(7)、若宮遺跡(8)、村東遺跡(15)、昌楽寺廻向遺跡(18)があり、急激に集落が拡大した様子がうかがわれる。中世には国府跡を利用し、蒼海城が築かれ(1429年)近世には、秋元氏の総社城築城や天狗岩用水や五千石堰など貴重な遺跡や旧跡が集中する地域である。

## III 調査の方針と経過

### 1. 調査方針

調査区が、南北に細長いため、北をA区、南をB区と付称し、グリッドの設定を行った。公共座標に基づき東西方向に延びる縦線に直交する経線を算用数字(1, 2, ...)で、南北方向に延びる経線に直交する縦線をアルファベット(A, B, ...)で付称して、4種グリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。(例A区

A-1、B区A-1など) また、水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。

図面作成は、1/20, 1/40, 1/100の縮尺を使用し、平板・遮形による細部測量で作図を行った。また、造構・遺物等の写真撮影（フィルム）も行った。

## 2. 調查経過

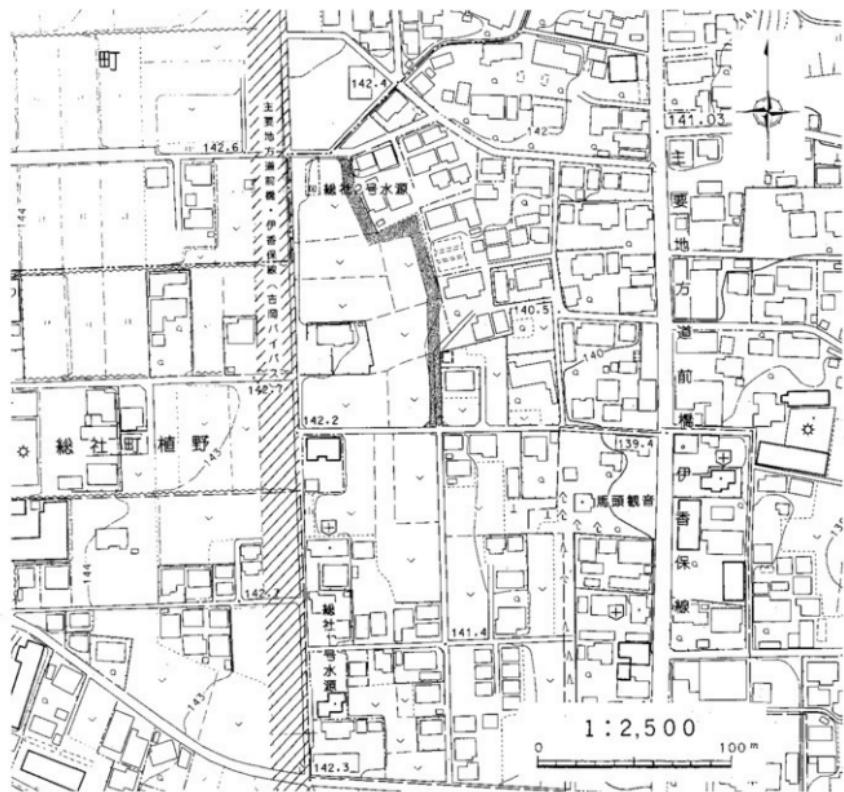
平成13年8月31日より資材・重機類や休憩所・仮設トイレを搬入・設置する準備を開始し、市調査団の指導のもと、A区の北端より第1面の重機による表土掘削を開始し、並行して構造確認（ジョレン、移植による精査）を実施し、B区南端まで調査を実施した。引き続き第2面はA区の溝W-1の西側18m間とB区溝W-10から調査区南端まで、As-Cの軽石を含んだ黒色土層面で構造確認し、A区に4カ所の深堀りを入れた。深堀りNo.2（A区K-9グリッド）で畦畔らしい黒色土の高まりを確認し調査範囲を広げ、第2面調査を行った。



第1図 周辺遺跡図

平成13年	8月31日	資材・重機、休憩所・仮設トイレ搬入 設置の準備	11月10日	A区に4ヶ所深掘り掘削
	9月 3日	現地立会い、近接地主あいさつ回り	11月13日	A区深掘りNo.2から第2面掘削開 始、人力精査開始
	9月 6日	資材・重機搬入、休憩所・仮設トイ レ設置	11月16日	第2面平面・断面実測開始
	9月10日	重機によるA区北端第1面表土掘 削開始、人力精査開始	11月23日	第2面人力精査完了
	9月17日	基準点及び水準点取り付け測量	11月27日	第2面全景写真撮影
	9月19日	遺構平面・断面実測開始	11月29日	第2面遺構平面・断面実測終了
	10月31日	A区・B区第1面遺構精査終了、全 景写真（A区・B区）	12月 2日	現地説明会
	11月 8日	A区W-1西側18m間人力による 第2面遺構調査開始	12月 3日	埋戻し開始、土壤分析サンプル採取
	11月 9日	B区W-10より南側人力による第2 面遺構調査開始、A区・B区 第1面平面・断面実測終了	12月 9日	埋戻し・整地作業完了
			12月11日	資材類の撤収完了
			12月12日	整理作業開始
			平成14年 3月 1日	印刷・製本
			3月 8日	整理作業完了

(発掘調査日誌抜粋)

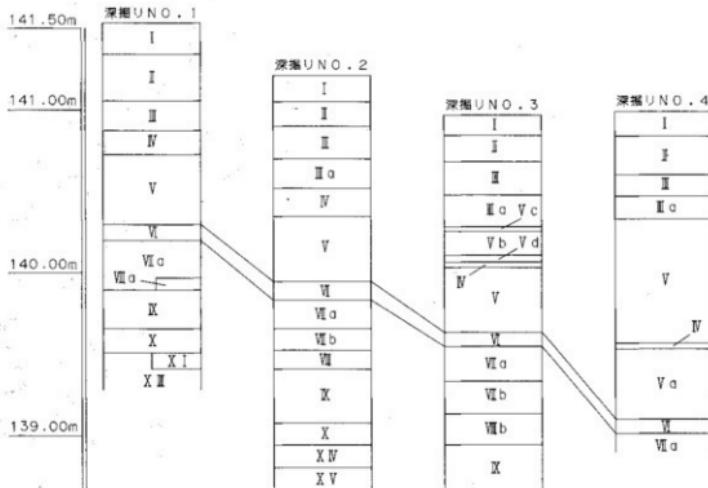


第2図 遺跡位置図

## IV 層序

層序は、調査区内に入れた深掘りトレーンチをもとに、模式的に、断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、深掘り土層断面写真は、図版3を参照されたい。

- I. 黒褐色土層 弱綿粘細砂 白色軽石粒φ1~5を微量、小礫をやや多く含む（現耕作土層）
- II. 黑褐色土層 中綿弱粘細砂 白色軽石粒φ1~2を微量、小礫を少量炭化物微量含む
- III. 黑褐色土層 中綿弱粘細砂 白色軽石粒φ1~2をやや多く、小礫を微量、橙色粒を微量含む
- III. a. Ⅲに黄褐色土を小量含む（平安時代以降の耕作層）
- IV. 喀褐色砂質土層 中綿粘ナシ粗砂 白色軽石粒φ1~15をやや多く橙色粒20%含む（泥流層）
- V. 灰黄褐色土層 中綿弱粘細砂 白色軽石粒φ1~20をやや多く橙色粒15%砂質混土 喀褐色酸化跡10%アリ（泥流層）
- V. a. Vに喀褐色の酸化跡15%アリ（泥流層）
- V. b. Vより白色軽石粒φ1~10を多く砂質を多く含む（泥流層）
- V. c. 喀褐色砂質土層 弱綿粘ナシ白色軽石粒φ1~3を7%、橙色粒10%含む
- V. d. V bに小礫を多く含む
- VI. バミスとアッシュが交互に8層~12層の平行ラミナ (Hr-FA層)
- VII. a. 黒色粘質土層 中綿中粘微砂 As-Cを多く含む
- VII. b. 黑色粘質土層 強綿粘微砂 As-Cを微量含む
- VII. a. VII aとIXの混土 弱綿粘細砂
- VII. b. VII bとIXの混土 中綿粘細砂
- IX. 灰黄褐色砂層 中綿粘ナシ粗砂礫を少量含む 喀褐色酸化跡アリ
- X. 灰黄褐色土層 中綿弱粘細砂 IXより粘性アリ
- X. I. XとX IIIの混土
- X. II. Xに砂質を少量含む
- X. III. 喀灰色砂層 弱綿粘ナシ砂層ラミナ
- X. IV. 黑色砂層 緩粘ナシ
- X. V. 黒色砂礫層 緩粘ナシ



第3図 深掘り土層断面図

## V 検出された遺構と遺物

### 1. 概観

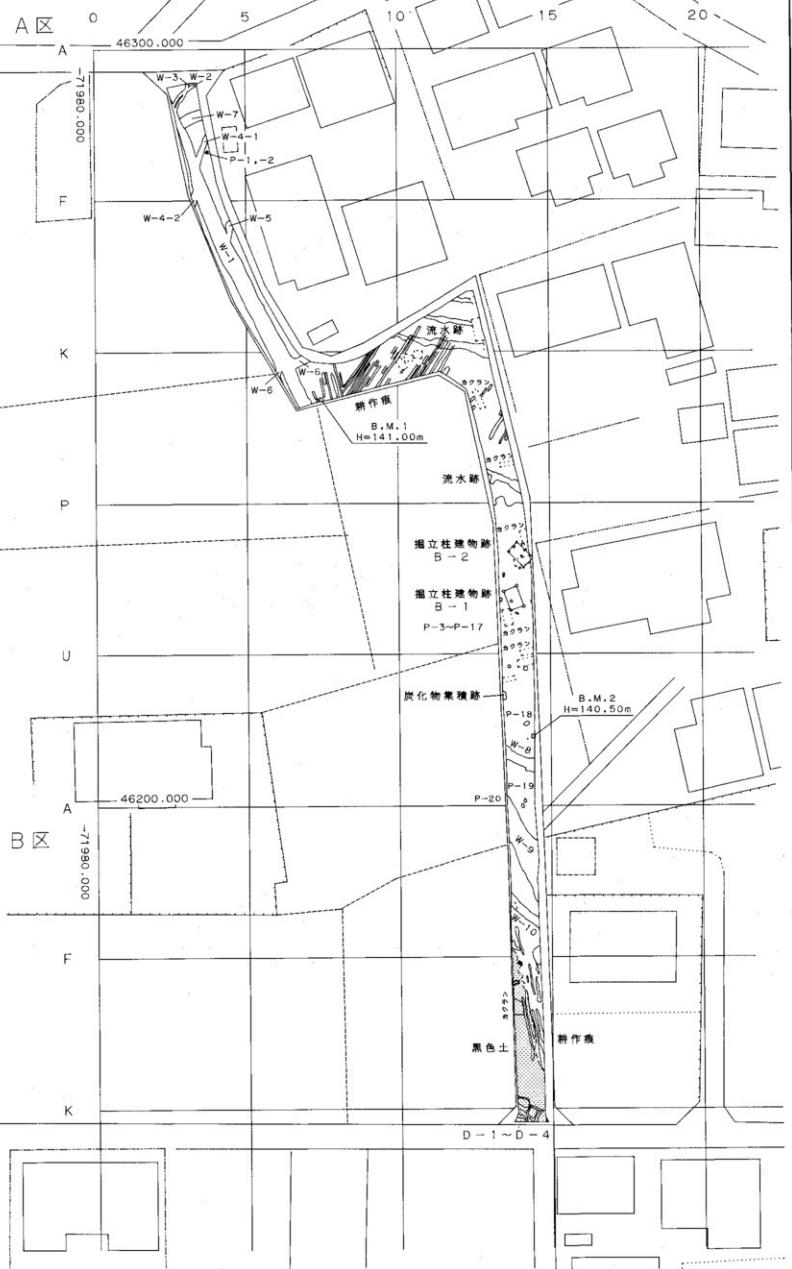
A区・B区の第1面では古墳時代以降の溝跡8条、掘立柱建物跡2棟、ピット17基、火葬跡と思われる炭化物の集積した遺構1カ所、中世以降の耕作痕32条、現代の土坑4基、時期不明の耕作痕5条、を検出した。特に水田の遺存状況は、A区の第2面では古墳時代の小区画水田跡92面を検出した。

遺物は、縄文土器片、須恵器・土師器片、石器、陶器片など総数591点検出した。

総社植野北開土遺跡

第一面全体平面図

S=1/500  
N



# 總社植野北開土遺跡

## 第二面全体平面図



S=1/500

A 区

0 5 10 15 20

A 46300.000

F  
71980.000

K

P

U

A

F

K

第2面調査

深掘UNO.1

大畦畔1

深掘UNO.2

小区画水田跡

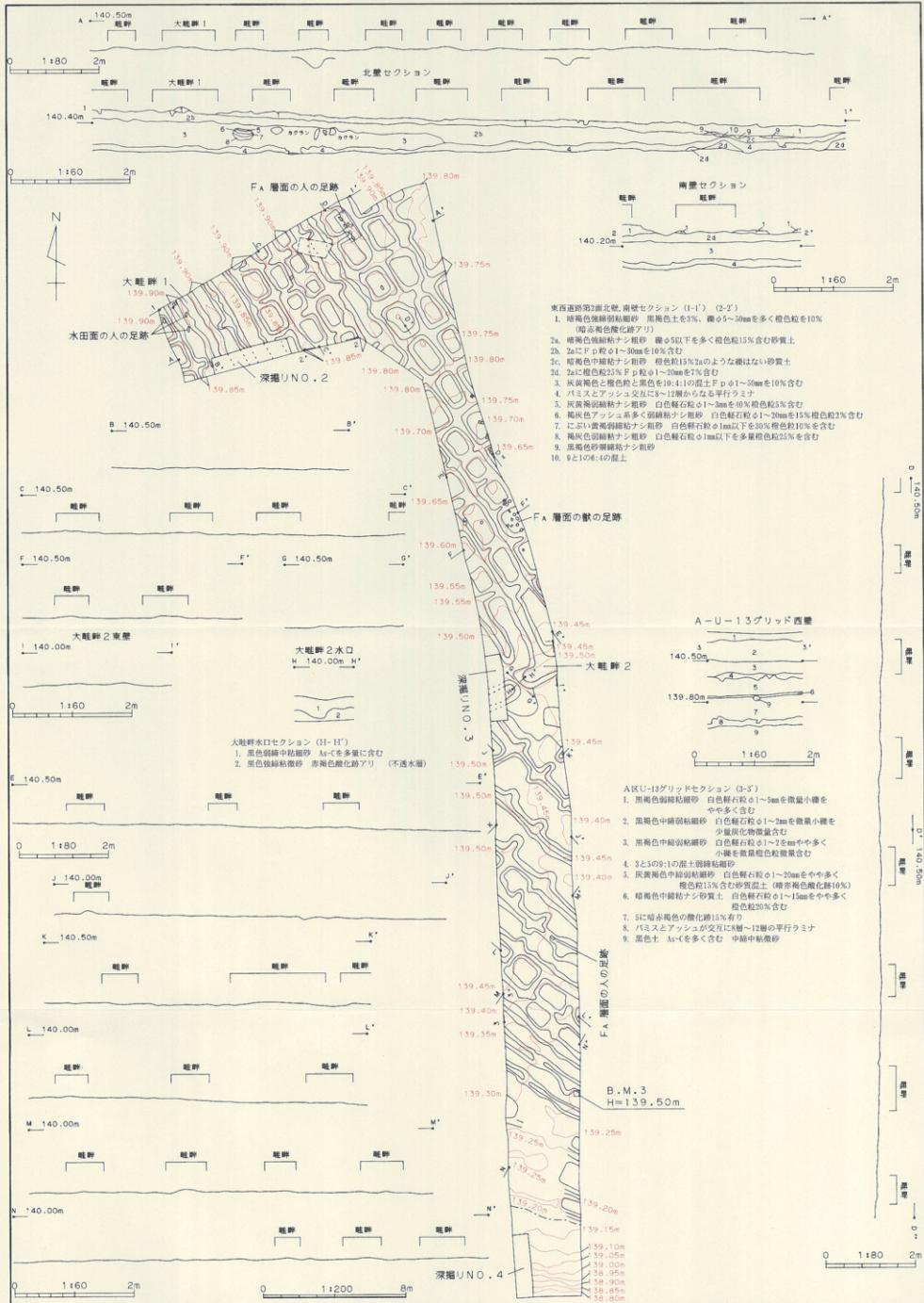
深掘UNO.3

深掘UNO.4

大畦畔2

第2面調査

## 小 区 画 水 田 実 測 図



## 2. 小区画水田跡（古墳時代）

A調査区で検出された小区画水田跡は、K-8～X-14グリッドに位置し、表土より135～200cm程下に確認した。株名系のバミスとアッシュが交互に積み重なる8層から12層の平行ラミナ状を呈する、厚さ10～12cm堆積したHR-FA層真下より疊一層あるいは、それ以下の水田区画が92面検出された。水田層は、As-Cを多量に含んだ黒色土層が20～25cmこれは、耕作層と思われ、その下には、As-Cを含まない粘質の黒色土層が0～20cmの不透水層を構成している。水田は、傾斜した地形に沿って北西から南東方向に（N-35°-W）長い長方形をしており北東から南西方向の畦畔には、水を引き込む、水口と考えられる構造が見られた。また大部分の畦畔は上端幅20～40cm、下端幅50～90cm、高さ1～7cmに対して上端幅40～80cm、下端幅100～120cm、高さ4～8cmの大きくしっかりとした、畦畔が、K-9グリッドに北西から南東方向に1カ所（大畦畔1）とP-13～P-14グリッドに北東から南西方向に1カ所（大畦畔2）検出された。さらに、この大畦畔2は水口の構造を持っている。また、大畦畔2から南側の水田は、地形の関係か畦畔の方向が北側と幾分異なりN-50°-Wを測り、約15°の差がある。また、北東から南西方向の畦畔が北側ではしっかり検出されているが、南側では、作る途中なのか、作らなかったのか、検出できない箇所が多かった。また、北側では、1.6%の勾配であったがI-12～J-12グリッドにかけて、幾分勾配が1.8%と大きくなり畦畔も確認しづらくなかった。南側では、1.7%～2.5%の勾配でV-13グリッドから畦畔を確認出来なくなりX-13グリッドから15.2%の急勾配でW-9方向へ落ち込んでいる。深掘りNo.2と大畦畔2の水口部分、エレベーションボイントI-1-I'において水田を立割りしたところ、As-Cを含んだ黒色土層が下層に柱穴状に入り込んで見られた。元総社明神遺跡や三ツ寺遺跡などでは、畦畔内部から、強湿地における畦畔補強の為の草束や坑が検出されているが当遺跡には、検出されていない。水田面には、人の足跡と思われるものが検出されたが數少所であった為、方向性は確認できなかった。また、水田を覆った株名テフラ層上にも、人の足跡や獸の足跡と思われるものが検出されたがこれも方向性は確認できなかった。おそらく耕作している水田が火山灰に覆われて心配になり見に来た者がいたと思われる。遺物は、土師器片1点を検出した。

## 3. 溝跡

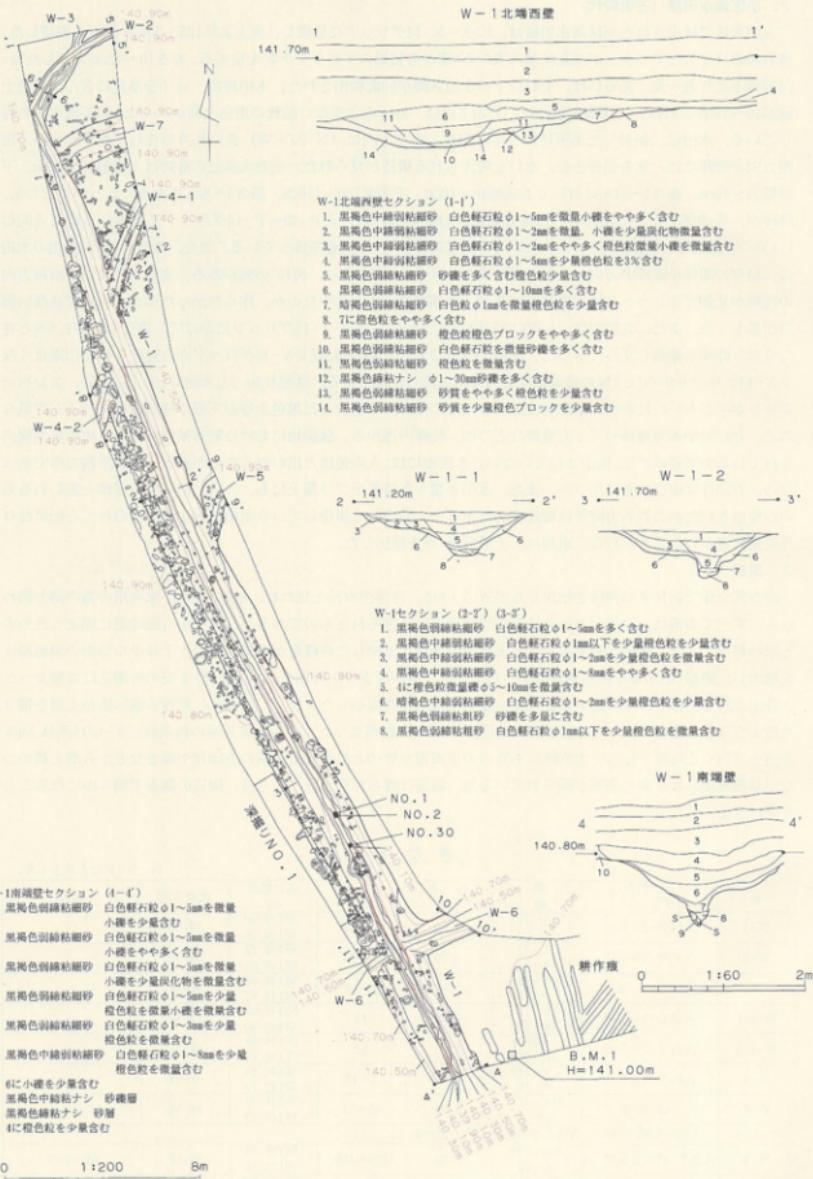
調査区全体で計10条の溝跡を検出したがW-7・8は、自然流水跡と思われ、他の8条は、水利用の為の溝と思われる。すべての溝は、泥流層を掘り込み古墳時代以降に掘られたものであるが、覆土から同時に埋まったものと思われる。また、遺物から見るとW-1とW-9の溝底に堆積した砂礫層から縄文土器片とロクロ形整の須恵器片を検出し、陶器・磁器等が検出されなかったことは、溝が埋まった時期としては奈良・平安の時期迄には埋まったと推定される。なお、その他の溝からは、遺物は検出されなかった。また、W-9は、粘性の強い黒色土層を掘り込むような強い流れの後、砂礫層と灰黃褐色土層で50cm程埋まった。この土層天端の標高は、W-1の勾配1.56%で追っていくとほぼ一致し、方向的にもW-1の下流部がW-9と思われる。溝の方向性や深さなどから溝と溝のつながりを推測したが調査範囲が限られている為、確証は得られなかった。今後、周辺の調査で明らかになることを期待する。

溝計測表

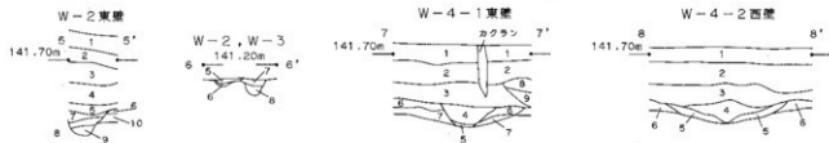
N-S-Eは方向を示す。

No.	溝の位置 (グリッド)	上 下 幅 (cm)	長 さ (m)	深 さ (cm)	底の標高 (m)	流水方向	備考
W-1	A区B-2～L-6	200～235 8～24	44.80	41～85	NW140.60 SE139.90	NW-SE	
W-2	A区B-2～B-3	34～42 12～24	4.70	15～27	SW140.83 NE140.80	SW-NE	
W-3	A区B-2～B-3	24～45 6～12	3.80	2～10	NE140.96 SW140.92	NE-SW	
W-4-1	A区C-3～D-3	65～75 16～30	3.80	15	NE140.81 SW140.80	NE-SW	
W-4-2	A区E-3～F-3	100 16～30	1.60	12	SW140.88 NE140.83	SW-NE	
W-5	A区F-4～G-4	70～100 16～25	1.85	4～12	NE140.85 SW140.75	NE-SW	
W-6	A区K-6	114～170 18～30	3.50	45～57	SW140.42 NE140.42	SW-NE	
W-7, 8	人工的な溝ではなく自然の水の流れた跡と思われる。						
W-9	A区Y-13～B区P-14	300～340 40～70	7.80	130～150	NW138.98 SE138.88	NW-SE	竪穴あり
W-10	B区C-13～D-14	110～120 20～22	4.80	55～66	NW139.90 SE139.79	NW-SE	

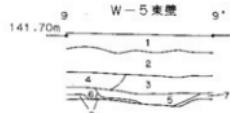
註) 数値はいずれも調査区域内検出值を表す。



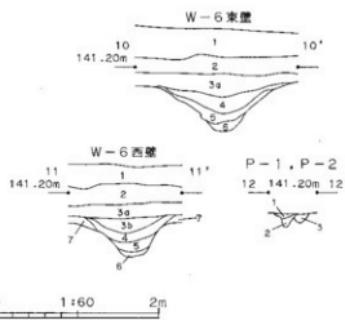
第7図 W=1~7, P=1~-2実測図



- W-2 東壁セクション (5'-5'') (6'-6'')
- 黒褐色弱筋粘土質砂 帯を多く含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを微量小礫をやや多く含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~2mmを微量小礫を少量
  - 炭化物微量含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~2mmをやや多く褐色粒を微量 小礫を微量含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを少量褐色粒を3%含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを多く褐色粒を15%含む
  - 15%砂を多く褐色粒10%含む
  - 堆積物弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~3mmを少々褐色色を10%含む
  - 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~1mm以下を多く含む
  - 黒褐色弱筋粘土ナシ 白色軽石粒φ1~5mmを多く褐色粒を25% 植灰色土を10%含む



- W-5 東壁セクション (9'-9'')
- 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを微量、小礫を やや多く含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~2mmを微量、小礫を 少量
  - 堆積物弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~2mmをやや多く褐色粒微量
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 小礫を微量含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~10mmと褐色粒をやや多く含む
  - 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~10mmを多く褐色粒を少量含む
  - 堆積物弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~10mmを多く褐色粒ブロックを 多く含む
  - 褐色粘土ナシ黄土質 白色軽石粒φ1~10mm少量褐色粒ブロックを 萃泥に多く含む



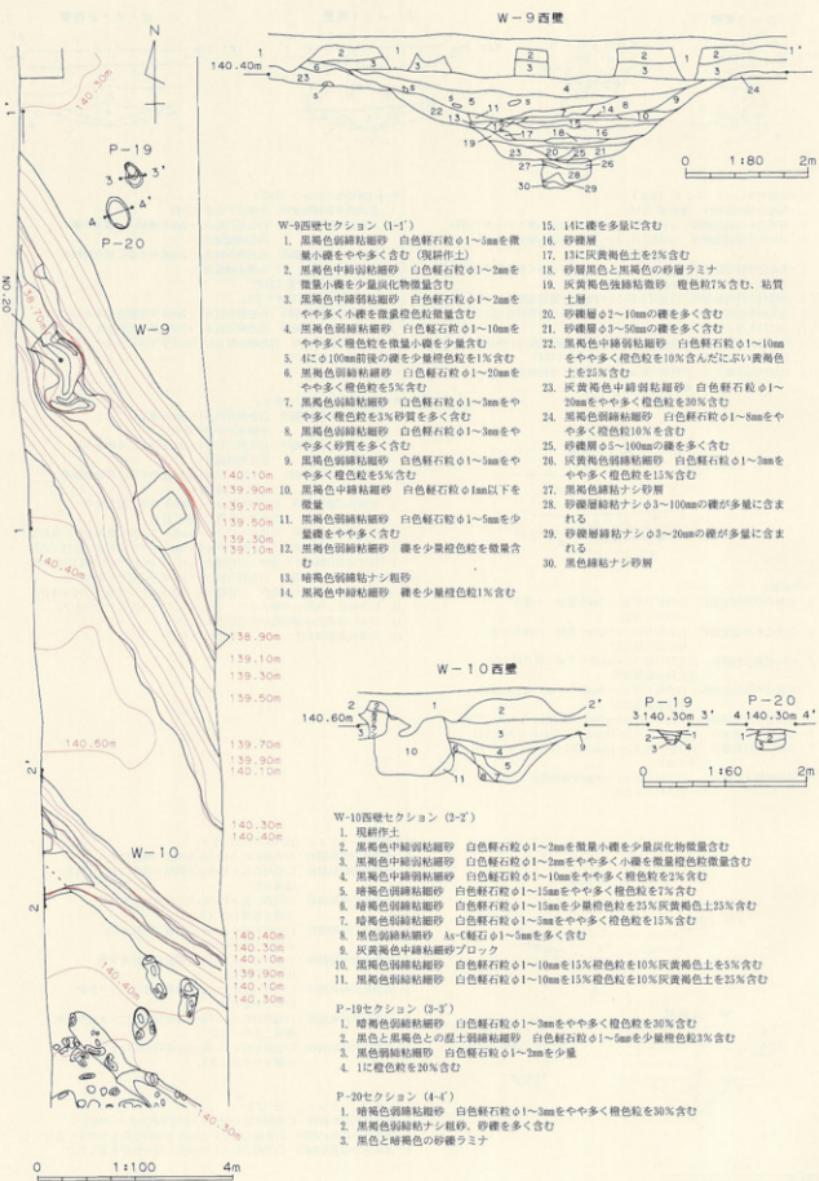
- W-4-1 東壁セクション (7'-7'')
- 黒褐色中弱筋粘土質砂 小礫をやや多く含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~2mmを微量、小礫を少量
  - 炭化物微量含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~2mmをやや多く褐色粒微量 小礫を微量含む
  - 0%褐色色をやや多く含む
  - 6%褐色色を非常に多く含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを少々褐色粒を3%含む
  - 尾高角中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを多く褐色粒を1%含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmをやや多く褐色粒を1%含む
  - 黒褐色弱筋粘土ナシ

- W-4-2 西壁セクション (8'-8'')
- 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを微量 小礫をやや多く含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~2mmを微量、小礫を 少量
  - 炭化物微量含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~2mmをやや多く褐色粒微量 小礫を微量含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmをやや多く褐色粒を 多く含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmをやや多く褐色粒を10%含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmをやや多く褐色粒を15%含む
  - 灰黃褐色強筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~50mmを多く褐色粒30%含む
  - 灰黃褐色強筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを少々褐色粒30%含む
  - 灰黃褐色中弱筋ナシ粗砂 白色軽石粒φ1~5mmを少々褐色粒15%含む
  - 灰黃褐色中弱筋ナシ粗砂 白色軽石粒φ1~5mmを少々褐色粒10%含む
  - 灰黃褐色中弱筋ナシ粗砂 白色軽石粒φ1~5mmを少々褐色粒10%含む
  - 灰黃褐色中弱筋ナシ粗砂 白色軽石粒φ1~5mmを少々褐色粒10%含む

- W-6 西壁セクション (10'-10'') (11'-11'')
- 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを微量小礫をやや多く含む
  - 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを微量小礫を少量化物を 微量含む
  - a. 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを少々褐色粒微量 小礫を微量含む (1%)
  - b. 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを少々褐色粒2% 小礫を少量化含む (2%)
  - 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを微量褐色粒を微量 小礫を微量含む
  - 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを微量褐色ブロックを少々 砂質を微量含む
  - 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを微量褐色ブロックをやや多く 小礫をやや多く含む
  - 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~2mmを少々褐色ブロック粒を多く 小礫をやや多く含む

- P-1, P-2, セクション (12'-12'')
- 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1mm以下を微量褐色粒を微量含む
  - 黒褐色弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~3mmを少々褐色粒をやや多く含む
  - 黒褐色中弱筋粘土質砂 白色軽石粒φ1~5mmを多く褐色粒を多く含む

第8図 W-2～6, P-1・2断面図



第9図 W-9・-10実測図

#### 4. 挖立柱建物跡及び柱穴

A調査区のQ-13～S-14グリッドにかけてB-1, B-2の2棟が検出された。泥流層面で確認したが、周辺より幾分離高地になっており柱穴が集中して検出された場所である。B-1については、柱穴が4基方形な掘り方をしている。棟方向は、N-20°-Wを示し規模は、東辺2.84m、西辺2.65m、北辺1.85m、南辺1.84mを測り、泥流層を掘り込み白色軽石と橙色粒を含む黒褐色や暗褐色土層で埋まっていた。また、P-4の柱穴には、穴を掘る際に障害となつた拳程の大きさのIIR-FP軽石を先の鋸い物で削岩した形跡が見られた。遺物は検出されなかった。B-2について、3基の柱穴を検出した。形状は梢円形で棟方向は、N-43°-Wを示し規模は、西辺2.89m、北辺1.74m、を測り、泥流層を比較的浅く掘り込み白色軽石と橙色粒を含んだ暗褐色土層で埋まっていた。遺物は、検出されなかつた。

その他の柱穴については、掘り込みが浅く白色軽石と橙色粒を含んだ暗褐色や黒褐色土層で埋まつていて、遺物は検出されなかつた。

B-1柱穴計測表

No.	所在グリッド	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	形 状	備 考
P-1	A区R-13	35	28	27	長方形	
P-2	A区S-14	32	30	43	長方形	
P-3	A区S-15	38	33	40	長方形	
P-4	A区R-16	34	29	35	長方形	

B-2柱穴計測表

No.	所在グリッド	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	形 状	備 考
P-3	A区Q-13	23	17	14	梢円	
P-5	A区Q-13	23	23	12	梢円	
P-8	A区R-14	22	16	12	梢円	

その他の柱穴計測表

No.	所在グリッド	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	形 状	備 考
P-1	A区D-3	30	27	18	梢円	P-2と重複
P-2	A区D-3	(24)	15	13	梢円	P-1と重複
P-4	A区Q-13	28	23	30	梢円	
P-6	A区Q-14	17	17	7	円	
P-7	A区R-13・14	30	27	26	梢円	
P-9	A区R-13	28	25	23	梢円	
P-10	A区R-13	19	14	5	梢円	
P-11	A区S-14	40	(40)	22	円	
P-12	A区S-13	50	34	15	梢円	
P-13	A区S-13	36	30	14	梢円	
P-14	A区S-13	20	16	16	梢円	
P-15	A区S-13	19	19	8	円	
P-16	A区U-13	29	35	27	梢円	
P-17	A区U-14	52	48	28	梢円	
P-18	A区W-14	85	63	7	梢円	
P-19	A区Y-14	54	30	17	梢円	
P-20	A区Y-13・14 B区A-14	68	34	25	梢円	

( ) は推定値を表す。

#### 5. 炭化物集積跡

A区V-13グリッドに位置し、一部分調査区域外に入っている。平面形状が凸字形の長方形を呈し、規模は長辺16cm、短辺60cm、深さ53cmと推定される。長軸方向はN-30°-Wを示す。焚口は、北東壁中央にあり、最大幅20cm、奥行40cmを測る。壁面は、火熱を受けていて泥流層を掘り込み、覆土は白色軽石と橙色粒を含んだ暗褐色土で埋まつていて。底部には炭化物が厚さ20cm程確認できた。炭化物は、広葉樹のブナや節と節の間が長い真竹と思われ、ブナ材は直径5~7cmの物を4つ割りにし、竹材は直径1cm程の物はそのまま使用し、それ以上の物は、幅1~2cm程に割って使用している。なお、造構形状や炭化物から見て、火葬跡の可能性も考えられるが、遺物や骨片がまったく検出されず、特定はできなかつた。



第10図 掘立柱建物跡、ピット及び炭化物集積跡実測図

## 6. 耕作痕

耕作方向の異なるものが2種類検出され、A区K-8～J-11と、L-12～N-13グリッドにかけて位置するものは、N-35°～Eを示し、現耕作土と黒褐色土層を除去した泥流層面において、黒褐色土を筋状に25条検出した。さくは最大確認長9.40mで幅は平均38cm、深さ平均8cm、歓間は平均8cmを測る。遺物は検出されなかった。また、A区K-7～L-8グリッドにかけて位置する耕作痕は、N-11°～Wを示し、現耕作土と黒褐色土層を除去した泥流層面において、黒褐色土を筋状に7条検出した。さくは最大確認長4.45mで幅は平均23cm、深さ平均8cm、歓間は平均18cmを測る。遺物は近世の陶器片を1点検出し、土層も現耕作層の下層から掘り込んでいるので近世の耕作痕と思われる。なお、B区E-13～I-14グリッドにかけて確認された、耕作痕はN-11°～Wを示しているが、現耕作土と黒褐色土を除去したところ南に行くにしたがい泥流層が薄くなり黒色土が出てきたところに黒褐色土を筋状に5条確認した。さくは最大確認長12.0m、幅平均35cm、深さ平均6cm、歓間は平均20cmを測る。遺物は検出されず、現地盤から浅い為、時期特定は不可能であった。

## 7. 土坑

本遺跡調査区の南端で重複した4基の土坑を検出した。B区のJ-13～K-14グリッドにかけて位置し、D-I-3、-4は半分以上調査区外に入っている。D-1～D-4は粘性の強い黒褐色土層を掘り込み白色軽石粒や橙色粒を含む黒褐色土で埋まっていて、ガラス片や銅線などが混入していた。遺物はD-1では検出されなかつたが、D-2～D-4で第2次世界大戦当時使用された焰焙2点、堀10点、甕1点検出された。

## 8. 検出した遺物について

遺物は、ほとんどがW-1とW-9の溝底に堆積している砂礫の中から破片が検出された。おそらく上流から水によって運ばれて来た遺物であり当遺跡の中で使用されていた遺物ではないと思われる。時代的には、縄文時代後期の遺物を検出し加曾利B2式が多く、安行II式や称名寺II式を数点検出した。また、蔽石や石斧も数点検出された。その他、奈良・平安時代の轆轤成形した須恵器片を検出した。耕作痕からはK-7グリッドから近世の陶器片1点検出された。

出土 遺物 観察表

法量は①口径②底径③換径④器高⑤長さ⑥幅⑦厚さ⑧重量を表す。

No	出土位置	器 形	法 量	①胎土②焼成③色④残存	成・整形方法
1 No. 1	W-1 深鉢		④(4.8) ⑦0.7	①畳粒②良好 ③10YR5/1黒褐	縄文後期。深鉢口縁部。斜行する沈線の間が磨消縄文
2 No. 2	W-1 深鉢		②(8.4) ④(3.9) ⑦0.6～2.2	①細粒②良好 ③10YR5/2灰黄褐	縄文土器。底部内外面良く磨かれていている。網代窓は見られない
3 W-1 J-5グ	深鉢		④(3.6) ⑦0.6～0.7	①中粒②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐	縄文後期。深鉢の側部。沈線により区画。刷上位に刻目が見られる
4 W-1 J-5グ	深鉢		④(5.9) ⑦0.7～1.3	①中粒②良好 ③10YR6/4にぶい橙	縄文後期。波状口縁突起部の口～頸部に斜方向の沈線が數本見られる
5 W-1 J-5グ	深鉢		④(3.2) ⑦0.5～0.6	①細粒②良好 ③10YR5/2灰黄褐	縄文後期。頭上半部。沈線による曲線、対弧文、剥突文が見られる
6 W-9	注口土器		④(3.0) ⑦0.5～0.7	①畳粒②極良 ③10YR5/2灰黄褐	縄文後期。注口土器の底部。沈線で囲まれた中に剥突文。無紋帶は若干磨き風に横擦りが見られる
7 W-9	深鉢		④(4.7) ⑦0.6～0.8	①中粒②良好 ③2.5YR4/2灰赤	縄文後期。口縁部に厚みを持ち平行沈線で区画し磨消縄文
8 W-9	深鉢		④(5.3) ⑦0.5～0.7	①中粒②良好 ③7.5YR4/3褐	縄文後期。深鉢調節部。隙間に刻目施文
9 W-9	深鉢		④(6.8) ⑦0.8～0.9	①中粒②良好 ③10YR5/4にぶい黄褐	縄文後期。深鉢の頭上部に横走する縄文帯と無紋帶の組み合わせが見られる
10 W-9	深鉢		④(5.3) ⑦0.4～2.1	①中粒②良好 ③10YR5/2灰黄褐	縄文後期。波状口縁。装飾部分、沈線による区画。対弧文。刻目
11 W-9	深鉢		④(5.3) ⑦0.6～1.5	①粗粒②良好 ③10YR4/2灰黄褐	縄文後期。口縁部が内屈し波状口縁の装飾部分の口～頸方向にやや太目の落帯の貼付けが見られる
12 W-9	深鉢		④(3.4) ⑦0.7～0.9	①中粒②良好 ③7.5YR5/4にぶい黄褐	縄文後期。波状隆起の貼付けの下に削突文
13 W-9	深鉢		④(4.8) ⑦0.5～0.6	①中粒②良好 ③5YR5/2灰褐	縄文後期。口縁部に削突文。その下に沈線で区画し、区内に縄文施文

法量は①口径②底径③摘要④高さ⑤長さ⑥幅⑦厚さ⑧重さを表す。

No	出土位置	器 形	法 量	①胎土②焼成③色④残存	成・整形方法
14	W-9	深鉢	④(4.0) ⑦0.3	①粗粒②良好 ③5YR7/4にぶい椎	縄文後期。深鉢胴部。斜及び平行弦線施文。貼付けによる突起
15	W-9	深鉢	④(4.8) ⑦1.2~1.3	①粗粒②良好 ③7.5YR5/2灰褐色	縄文後期。深鉢剥部。弦線で区画した中に列点文施文
16	W-9	深鉢	④(3.9) ⑦0.4~1.0	①粗粒②良好 ③10YR2/1黒	縄文後期。口縁部に突起を持ち、括部は磨消し弦線による対弧文。胴部は縄文施文
17	W-9	深鉢	①(15.8) ④(6.6) ⑦0.6	①中粒②良好 ③7.5YR5/2灰褐色	縄文後期。深鉢口縁部。ヘラ状工具による浅い弧状沈捺施文
18	W-9	深鉢	④(5.0) ⑦0.7~1.1	①中粒②良好 ③5YR5/8明赤褐色	縄文後期。小型の深鉢。口縁部に貼付けによる溝帶。隆脊に刻目
19	W-9	深鉢	④(6.5) ⑦1.2~2.3	①粗粒②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐色	縄文土器。口唇部の装飾部分
20	W-9 No. 12	浅鉢	②(8.6) ④(5.4) ⑦0.7~2.2	①粗粒②良好 ③5YR6/6暗	縄文土器。細かい網代痕。磨耗により不鮮明
21	W-9	深鉢	②(12.0) ④(4.5) ⑦1.1~2.6	①粗粒②良好 ③外面5YR8/6暗 ④内面5YR2/1黒暗	縄文土器。底部網代痕、不鮮明
22	W-9	深鉢	②(8.8) ④(4.0) ⑦0.9~2.0	①粗粒②良好 ③5YR4/2灰褐色	縄文土器。底部網代痕磨耗して不鮮明
23	W-9	深鉢	②6.8④3.3 ⑦0.7~1.6	①中粒②良好 ③10YR6/4にぶい黄褐色	縄文土器。底部網代痕明瞭
24	W-9	深鉢	②(11.6) ④(3.0) ⑦0.8~2.4	①中粒②良好 ③10YR5/3にぶい黃毛	縄文土器。磨耗しているが底部網代痕明瞭
25	W-9	深鉢	②(13.0) ④(5.9) ⑦1.0~2.8	①中粒②良好 ③5YR4/3にぶい赤褐色	縄文土器。底部や大きめの網代痕明瞭
26	W-9	深鉢	②(8.6) ④(3.2) ⑦0.9~2.2	①粗粒②良好 ③5YR4/2灰褐色	縄文土器。底部網代痕明瞭
27	W-9	深鉢	②(4.6) ④(2.5) ⑦0.8~1.4	①粗粒②良好 ③5YR5/4にぶい赤褐色	縄文土器。底部や大きめの網代痕、磨耗により不鮮明
28	W-9	台付甕	②5.5 ④(1.7)	①粗粒②良好 ③10YR5/4にぶい黄毛	縄文後期。台付甕底部の台部と胴部の接合部分
29	深掘No. 2 No. 1	深鉢	④(9.5) ⑦0.6~0.7	①粗粒②良好 ③外面5YR4/2灰褐色 ④内面5YR4/6赤褐色	縄文後期。深鉢胴上半留。外面ヘラ削りで粗砂の引張り版。内面は丁寧な撫で
30	W-1 No. 4	分胴形石斧	⑤10.7⑥4.0 ⑦1.7⑧100		黒色安山岩。剥離の後縫がよく磨耗している。使用痕明瞭
31	J-5グ W-1	凹石	⑤11.6⑥10.9 ⑦8.1⑧1580		輝石安山岩。四面に凹石として使用痕一ヶ所づつあり。両端に敲打痕。全体に丸みを持つ
32	K-13グ	敲石	⑤9.6⑥5.4 ⑦4.9⑧400		花崗岩。全体によく磨耗し、両端に敲打痕が見られる
33	K-6グ W-1	須恵器 壺	④(6.0) ⑦1.4	①粗粒②極良 ③5S3/1青灰	大型壺の頸部。棒状工具による波状文
34	W-9	須恵器 壺	②(6.0) ④(1.7) ⑦0.6	①粗粒②良好 ③5Y6/1灰	底部回転糸切り。ロクロ整形
35	W-9	須恵器 高台付壺	②(6.0) ④(2.5) ⑦0.7	①粗粒②良好 ③5Y5/2灰オリーブ	回転糸切り。貼付け高台。水引き
36	W-9	高台付壺	②(8.7) ④(3.7) ⑦0.7	①中粒②良好 ③N6/灰	回転糸切り。貼付け高台。ロクロ整形
37	W-9	須恵器 壺 壺蓋接	③8.9④(1.3) ⑦0.4	①粗粒②極良 ③5S3/1青灰	ロクロ整形。蓋に揃部貼付け
38	W-9	須恵器 壺	②(8.0) ④(1.2) ⑦0.5	①粗粒②良好 ③N5/灰	ロクロ整形。底部ヘラ切り
39	W-9	須恵器 壺	①(25.0) ④(8.7) ⑦1.0~1.2	①粗粒②良好 ③7.5Y5/1灰	内外面粗粒な旗で仕上げ。大型壺の口縁部。輪積痕明瞭。中世陶器
40	W-9	須恵器 鉢	②(16.0) ④(5.5) ⑦1.2	①粗粒②良好 ③5Y6/2灰オリーブ	粗い石英長石類を混入し外表面とも難らしく調整。僅か薬合が付く中世陶器
41	W-1 セクションルート	砾石	⑥(6.0) ⑥2.3 ⑦2.4⑧40		凝灰岩。4面使用
42	J-5グ W-1	砾石	⑤(9.2) ⑥5.7 ⑦2.2⑧170		凝灰岩。3面使用。他の1面は剥れにより不明

註) 表の記載は以下の基準で行った。

1 胎土は細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とした。

2 焼成は、極良、良好、不良の3段階。

3 大きさの単位はcm、gであり、( )は推定値及び現存値を記載した。

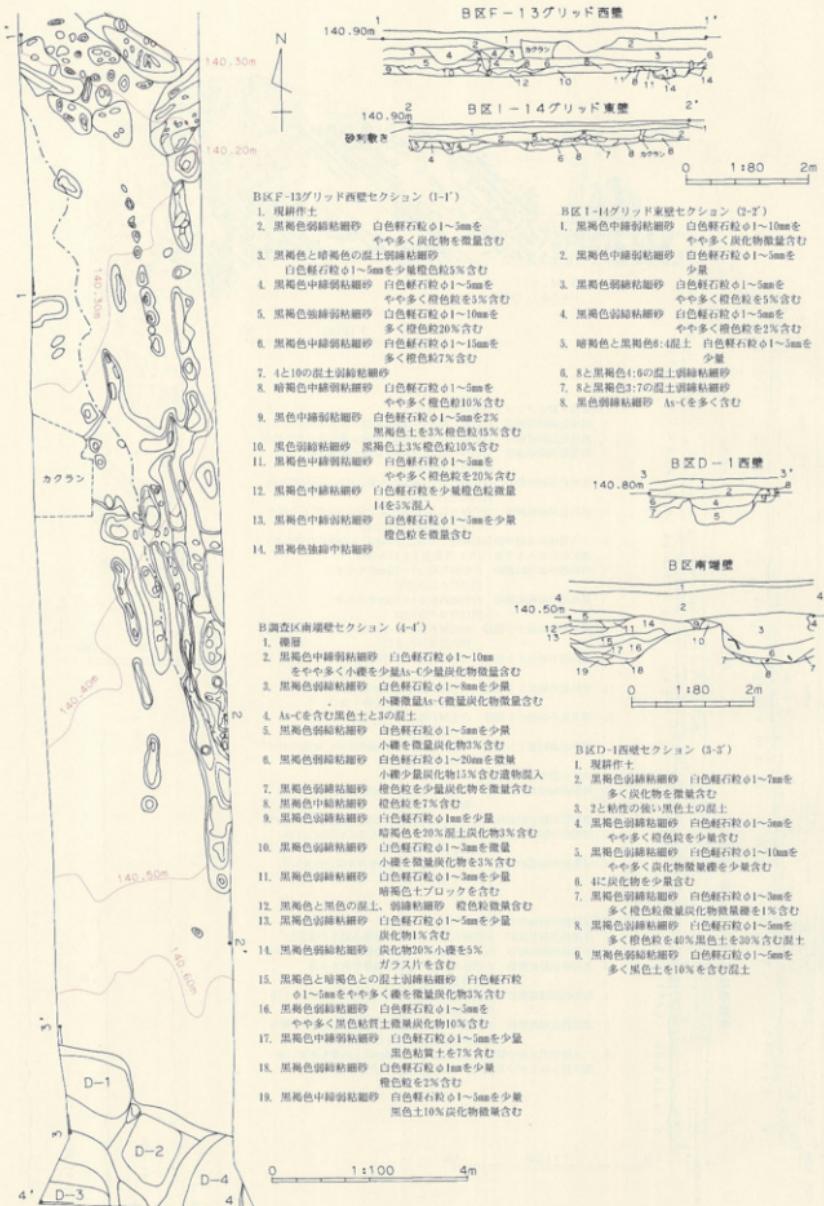
4 遺構の略称は、溝-W、グリッド-Gで表した。

5 出土位置のナンバーは、検出位置を示す。

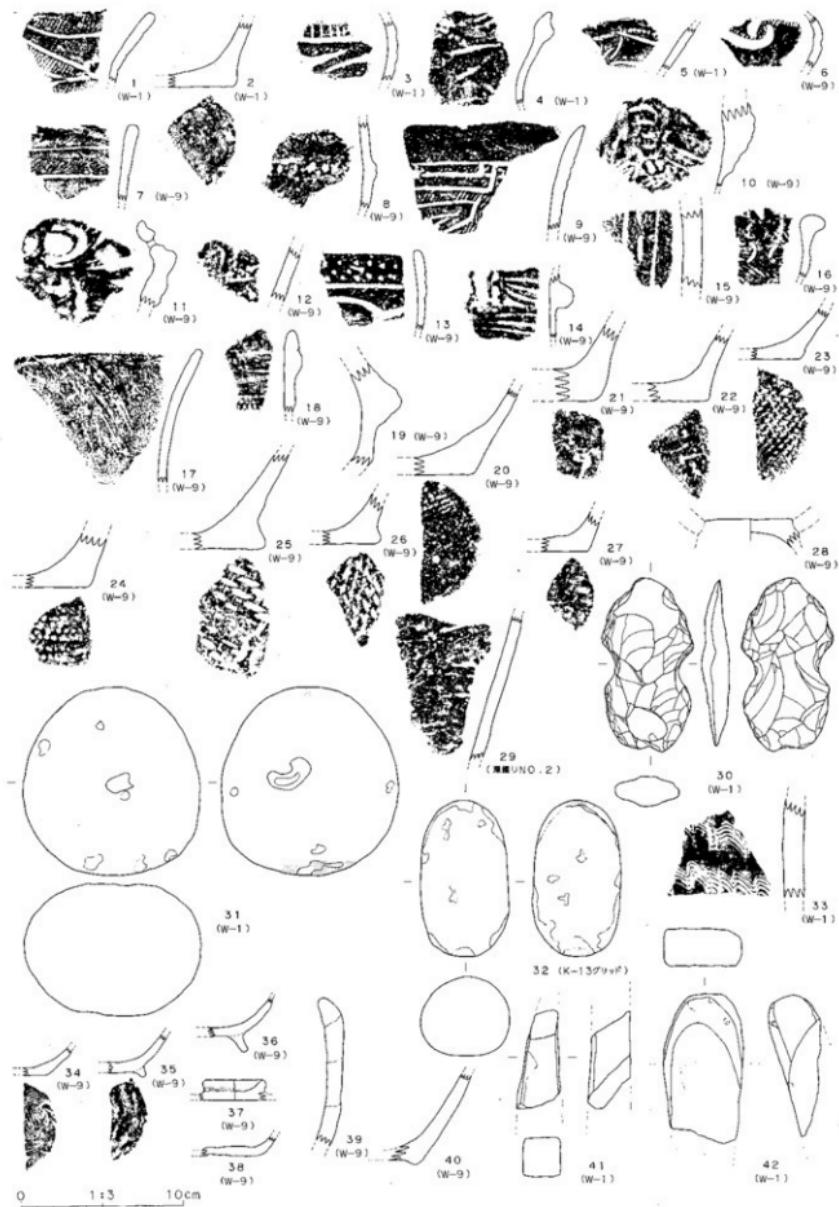
東西道路北壁(第1面)



第II図 A区耕作痕実測図



第12図 B区耕作痕実測図



第13図 遺物実測図

## VI 自然科学分析

本遺跡では年代が不明な土層や遺構が検出され、地質調査を行いテフラ検出分析と屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層や遺構の層位や年代に関する調査分析を行った。また、プラント・オパール分析を行い、埋蔵水田跡のイネあるいはその他植物の消長の検証を行った。調査分析地点は、深掘りNo.2である。

テフラ検出分析結果から、小区画水田層にAs-Cが混在し、その直上にHr-FA層、その上に火山泥流堆積物、さらに泥流堆積物の上面にはAs-Bが混在し、その上位に耕作痕が確認されている。また、プラント・オパール分析からは、Hr-FA層直下（小区画水田）からイネが多量に検出され、稻作が行われていたことが検証された。また、ムギ類やヒエが栽培されていた可能性も認められた。小区画水田層にはヨシ属も多く検出され水田稻作が行われる前は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと思われる。耕作痕からは、イネが多く検出されその他ヒエを栽培した可能性も認められた。

## VII まとめ

当遺跡は、榛名火山体から緩やかに南東傾斜した相馬ヶ原扇状地の扇端で扇状地形成に大きく関与したと思われる河川の午王頭川による浸食谷地の中に位置するとと思われる。また、Hr-FA下の黒色土層の地形から見られるようにW-9が谷底地の様相を見せ、古代から水の通り道と考えられる。今回の調査では、縄文時代の土器片が溝底の砂礫の中から数多く検出され、水の流れによって北西方向から遺物や土砂が流れてきたと考えられ、そこには清里・長久保遺跡、など多くの遺跡があり縄文時代の住居やその他の遺構が数多くあったと考えられる。水と言う点において今回検出した水田跡では、水利においては、比較的容易であったと思われる。しかし4世紀初頭に浅間山の噴火に伴う天候の悪化や降下したAs-C凝灰岩による水田の水持ち状態や稻の成長状態などから、一区画を小さくすることにより水持ちをよくし、熱伝導率の高いから水を温める効果、すなわち日中黒色土の方が、水より暖まりやすい為で小区画にすることによりその暖まった鞋畔に囲まれた水は、稻の分蘖に必要な温度になり天候不順の中、従来の大きい区画の水田で耕作するより小区画にした方が、貴重なお米の収穫量が良いことを当時の人達は知っていたと考えられる。また、6世紀初頭には、榛名山二ッ岳が形成された時の噴火により、水田上に8～12層の平行ラミナ状に10cm程火山噴出物が降り積もった。食料を得る為には、それを除去するかそのまま耕す方法しかないが、その作業をする前に大量の泥流により覆われてしまい、水田耕作を継続できなくなつたものと思われる。本遺跡検出の遺構の中で時期判定できるのは少なく、幅広い時間的把握しかできなかつた。今後周辺の調査により解明されることが期待される。調査団では小区画水田跡の調査事例が少ない為、今後の資料に大きく役立つことを期待する。

## 参考文献

- |                 |      |                              |
|-----------------|------|------------------------------|
| 西 久 保 遺 跡       | 1993 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団                |
| 元總社明神遺跡(VIII)   | 1990 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団                |
| 若 宮 遺 跡         | 1989 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団                |
| 柿 木 遺 跡         | 1984 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団                |
| 新 田 入 口 遺 跡     | 2000 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団             |
| 長 久 保 ・ 大 烟 遺 跡 | 2000 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団             |
| 元總社寺田 I 遺 跡     | 1993 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団             |
| 清 里 ・ 長 久 保 遺 跡 | 1986 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団             |
| 日 高 遺 跡         | 1982 | 群馬県教育委員会<br>(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 |



調査前A区現況（北から）



調査前A区現況（西から）



調査前B区現況（南から）



W-1～W-7全景（北から）



W-9全景（上層）



W-1出土遺物

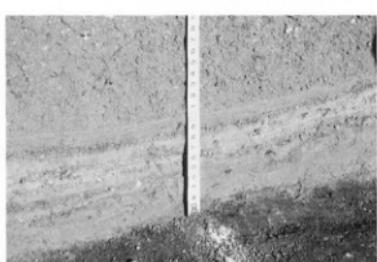


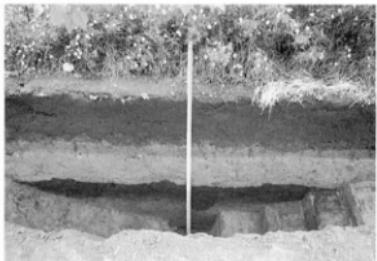
W-9全景（下層）



W-10全景（東から）

図版2





深掘りN. 2上層断面



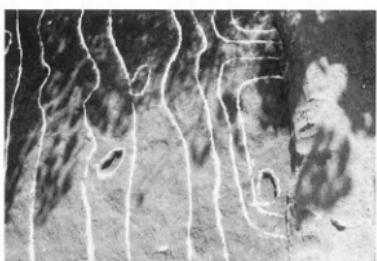
小区画水田跡全景（東から）



小区画水田跡全景（北から）



小区画水田大畔（北から）



小区画水田面足跡



埋め戻し完了（南から）

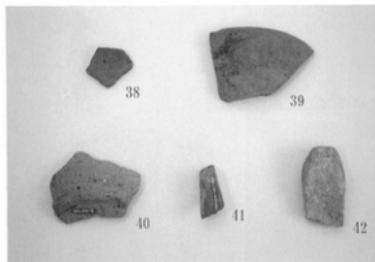
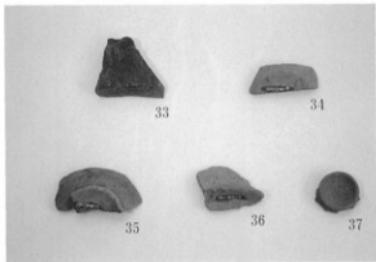
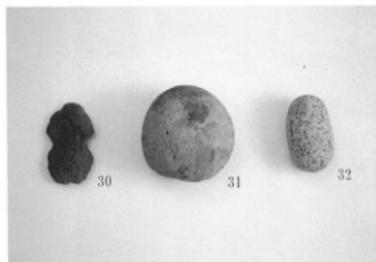
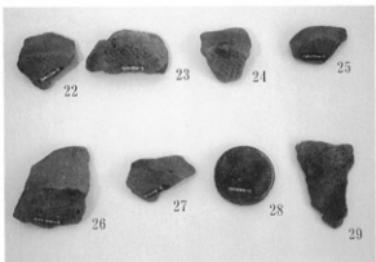
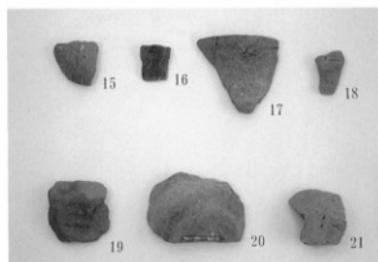
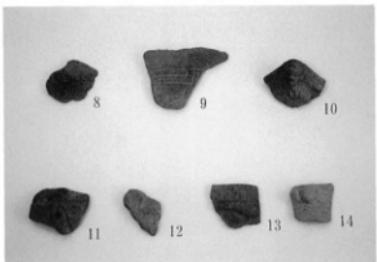
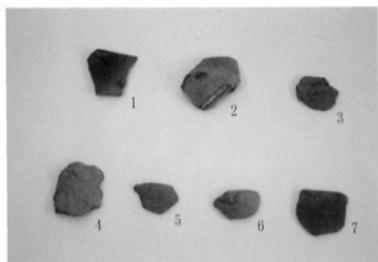


埋め戻し完了（西から）



埋め戻し完了（南から）

图版4



B区土坑内出土遗物

## 抄 錄

フリガナ	ソウジャウエノキタカトイセキ
書名	総社植野北開土遺跡
副書名	道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	スナガ環境測設株式会社 権田友寿
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2丁目10-2
発行年月日	西暦2002年3月7日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ソウジャウエノ 総社植野 キタカトイセキ 北開土遺跡	マニバシシ 前橋市 ソウジャウエノ 総社町植野	10201	13A113	36° 24' 50"	139° 01' 52"	20010831 20020308	879.5m <sup>2</sup>	道路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
総社植野 北開土遺跡	水田跡	古墳時代	小区画水田跡 92面	土師器片1点
	溝跡	古墳時代以降	溝跡 8条	縄文土器・須恵器・土師器片、石器
	柱穴	古墳時代以降	掘立柱建物跡 2棟	なし
	柱穴	古墳時代以降	柱穴 17基	なし
	耕作痕	中世以降	耕作痕 25条	なし
	耕作痕	近世以降	耕作痕 7条	陶器片1点
	耕作痕	不明	耕作痕 5条	なし
	土坑	近代以降	土坑 4基	焰烙・構

### 総社植野北開土遺跡

2002年 3月1日 印刷

2002年 3月7日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市三俣町2丁目10-2

編集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1